

防災から地域づくりを

子育て、介護と歩んだ地域活動



原田二三子さん
(高津区久末在住)

『女性防災かわさき』の代表を務める原田さん（67歳）は、幼稚園の母の会を皮切りに、子どもの成長に合わせ、さまざまな地域活動に参加してきました。その一方で、21年間、寝たきりのお姑さんの介護を自宅でおこない、介護者がリフレッシュする場、『在宅介護者の会』をつくり、同じ境遇の人たちと情報交換したり、励ましあったりしてきました。

1995年1月、阪神淡路大震災の翌日にお姑さんが亡くなり、力が一気に抜け、「これから何をしようか」と考えていたところ、連日報道される震災の被害状況を見て、「防災のことをやろう」と



「編集・まとめが好き」と
なんでも記録に

思い立ちます。『川崎・災害ボランティアネットワーク会議』に参加し、高津区の担当にも通い、そこから生まれた『かながわ女性防災』のような組織が地元川崎にも必要だと感じた原田さんは、『女性防災かわさき』を立ち上げます。防災は子どものうちからと、中学校をまわり、中学生にも参加を呼びかけました。会員には、中学生、高校生などの若い世代からシニア世代まで、幅広い年齢層の方がいます。若い人たちと一緒に活動することが原田さんの大きな喜びだそうです。

今年度、『女性防災かわさき』では、神戸の人たちを励まそうと、一般市民の人たちにも呼びかけ、絵手紙200枚を『希望の灯り』神戸市民ランナーに渡しました。それを機に、心の癒しの場として、月1回の絵手紙サークルも開始。

知ったことを伝えていきたい

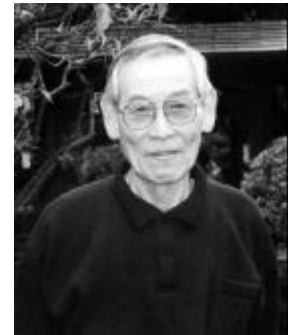
「市民は知る努力が必要」と言う原田さんは、何でも自分で調べ、こまめに記録しています。「自分の知ったことや学んだことをいろんな人に伝えていくことが生きがい」と、それらを会報や報告書などにわかりやすくまとめ、多くの人に伝えていきます。

「人はいつ死ぬかわからない。だから時間を大切に、今を精一杯生きたい」と、思ったことはすぐ実行に移す行動派の原田さん。「動くことで自然と知り合いができてくるの」と語る笑顔には、若々しいパワーがみなぎっていました。



女性防災かわさきの絵手紙メンバーと

自然体で 人と街をむすぶ



成川 荀さん
(幸区小倉在住)

「おじちゃん」と
呼びたくなるあたたかさ

約百年近く続くお米屋さんを営む成川さん（72歳）は、近所の子どもたちから「おじちゃん」と呼ばれ慕われています。遊びにやって来たり、学校で書いた作文をほめられたからと見せに来る子どもも多く、その作文をコピーして大事に保管していることにお母さんが感激したという話や、子育て中のお母さんがお米を買いに来て、成川さんに励まされ、元気づけられたなどというエピソードは数知れず。小学校が新しく隣にできたときには、子どもたちに農機具や古民具などの実物にじかに触れ、地域の文化や歴史

を学習してほしいと思い、収集した民具を寄贈しました。また、毎年のフェスティバルでも餅つききの準備を手伝うなど、いつも子どもたちのことを気にかかけ、自分ができることをしている姿があります。誰からも慕われる人柄から、一本筋の通った優しさが伝わってきます。今では数少ない、地域のお父さんのような存在といえるでしょう。

古民具にひかれて

祖父の代から収集されたという古民具は成川さんに受け継がれ、倉庫からあふれるほど。現在もさらに増え続けているようですが、ほかに日記や地図、さまざまな古文書も数多く残され、さながら



戦火を逃れた門は美しい飴色に

資料館の雰囲気です。それらを前に、「民具や古文書を眺めながら、歴史に思いを馳せる時間が一番の楽しみ」と語る成川さんは、今、幸区の歴史についてまとめる委員も引き受け、活躍されています。幸区は赤穂浪士とゆかりの深い地ですが、成川さん宅では、10年前に発見された色鮮やかな忠臣蔵の絵屏風を、例年、12月14日に地域の方たちに公開しています。

今後は、古民具の年代や歴史を調べ、今ある資料を整理し、ゆくゆくは地域の資料館をつくりたいという夢をお持ちですが、ぜひ歴史を語り継いでいってほしいものです。



大好きな古民具に囲まれて

関心のある方はお問い合わせを
幸区小倉 461 電話 044-511-0633

主婦がはじめたデイサービス

多摩区三田団地の一角にあるミニ・デイサービス『コスモスの家』は、1990年に三田に住む主婦たち5人が資金を出し合い開設したもの。団地に住む一人暮らしのお年寄りが、歩いて行ける「交流の場」を望んでいることを知り、高齢社会を迎えるにあたり、安心して住める地域にしたいと考え、渡辺ひろみさん（代表、67歳）は友人たちと団地の集會場でミニ・デイサービスをはじめました。当初は、保健婦さんに話をしてもらったり、手芸や手作りの食事を楽しんでもらうことから手がけました。渡辺さんは、講師として出かけたり、友人に援助してもらいながら運営費を捻出したそうです。



創設のメンバーで代表の渡辺さん

2年前、『コスモスの家』は新たにNPO法人として出発。配食サービス

老後も安心して住める地域づくり



コスモスの家（多摩区三田）

や『宮前コスモスの家』の設置、有馬小学校内のデイサービス、ヘルパーの派遣など、幅広い地域サービスをおこなうまでに発展しました。現在、30代から60代までのスタッフ60名ほどがローテーションでかかわっています。運営メンバーは10名、うち60代のベテランも数名います。スタッフのほとんどは、ヘルパー1級〜3級、介護福祉士、ケアマネージャーの資格をこの間取得しました。アットホームな主婦のよさを生かしつつも、資質向上のために定期的な研修もしています。

介護を地域で支えていきたい

デイサービスに参加したお年寄りは、人と人との交流で刺激しあい、「こんなに楽しいこともあった」と元氣になります。「サービスを受けるお年寄りもスタッフも、同じ地域に住み続けられるようにしたい」と、渡辺さんたちは考えています。こうした活動を通して生まれる「地域の中の頼りにしたり、されたり」の連帯がうれしい」と渡辺さん。地域に住むお年寄りの実態を調査したり、住民として行政と協働で介護の社会化などを実現していきたいと、地域福祉計画づくりへの熱意を語ってくれました。



コスモスの家 デイサービス
月曜～金曜日 10:00～15:00
給食、送迎、入浴サービス、健康相談、
リハビリ体操、イベントなど
多摩区三田 2-5-3 電話 044-932-2425